



SVJP JAPAN FORUM

SVJP ジャパン・フォーラム



PROGRAM

プログラム

THEME

シリコンバレーと日本：デジタル経済の発展と AI の役割を考える

SILICON VALLEY & JAPAN: "THE KEY ROLE OF AI IN DRIVING THE DEVELOPMENT OF THE DIGITAL ECONOMY"

9:00

開場

9:30-10:20

KEYNOTE ADDRESS

ヨーキー・マツオカ氏 基調講演及び質疑応答

10:20-10:30

休憩

10:30-11:30

PANEL DISCUSSION

パネルディスカッション

パネリスト：ヨーキー・マツオカ氏・金出武雄氏・北野宏明氏

モデレーター：御立尚資 (SVJP EC メンバー、ボストン・コンサルティンググループ シニア・アドバイザー)

11:30-13:00

LUNCH RECEPTION

ランチレセプション (交流会)

SPEAKERS

スピーカー



ヨーキー・マツオカ

Yoky Matsuoka

Nest (ネスト)
最高技術責任者 (CTO)

1972 年生まれ。16 歳のときにプロテニス選手を目指して渡米。カリフォルニア大学バークレー校で学士号 (ロボット工学)、MIT で博士号 (電気工学とコンピュータ科学) を取得。ハーバード大学の博士研究員を経て、カーネギーメロン大学とワシントン大学で教鞭をとる。2007 年、ロボット義手を開発した功績が認められ、マッカーサー賞受賞。2009 年、グーグル X の共同創業者として立ち上げに関わる。2010 年に Nest の初期メンバーとして加入し、技術担当副社長を務めた。その後、アップルなどを経て、2017 年に Nest に CTO として復帰。4 児の母。



金出 武雄

Takeo Kanade

カーネギーメロン大学
ワイタカー冠全学教授

1945 年生まれ。京都大学工学博士。カーネギーメロン大学教授などを経て、同大学ロボティクス研究所の所長や、生活の質工学研究センター長を歴任。コンピュータビジョンの第一人者であり、画像解析や仮想現実、自動走行車、スーパーボウルに投入された 360 度撮影システムの「Eye Vision」など、多くの実績を残している。アメリカ工学アカデミー特別会員、アメリカ芸術科学アカデミー会員。日本の理化学研究所・革命知能統合研究センターの特別顧問も務める。京都賞先端技術部門、フランクリン財団パワー賞など多数受賞。



北野 宏明

Hiroaki Kitano

ソニーコンピュータサイエンス研究所
代表取締役社長

1961 年生まれ。京都大学工学博士。国際基督教大学を卒業後、日本電気勤務を経て、カーネギーメロン大学に留学し、世界初の音声同時翻訳システムを開発。その後、ソニーコンピュータサイエンス研究所に入社し、「AIBO」の開発に携わる。2008 年にソニーコンピュータサイエンス研究所の取締役所長に就任。ソニー執行役員コーポレートエグゼクティブのほか、沖縄科学技術大学院大学教授や、自らが 2001 年に設立した NPO「システムバイオロジー研究機構」の会長も務める。国際的ロボット競技大会「ロボカップ」の発起人の一人としても知られる。



基調講演の最後にはたっぷり20分ほどかけて会場からの質問に丁寧に答えたマツオカ氏。

REPORT

レポート

カーネギーメロン“マフィア”が語る 人工知能の未来とニッポンの課題

2018年2月23日、都内で第1回SVJPジャパン・フォーラムが開催された。

AIやロボティクスの分野で世界最先端をいく3人が語った「日本の進むべき道」とは。

Text by Yasushi Masutani Photographs by Ko Sasaki

第1部の基調講演に登壇した日本出身のヨーキー・マツオカ氏は、80名を超えるエグゼクティブを前に、自らの歩みやAI・ロボットを活用した未来への展望を語った。

同氏がCTOを務めるNestは、シリコンバレーを代表するIoT企業。とくに米国の家庭で一般的なサーモスタット(自動温度調節器)に革命をもたらしたことで知られる。

AIを用いて室内温度を自動制御し、これまでに累計140億kWhの電力を節約することに成功した(約10億ドル相当)。たとえば子どもの送迎など短時間の外出なら温度設定は維持するが、仕事などで終日外出するなら

電源を落とす。その判断をAIが下す。

「人は生来怠け者なので、手動ではエネルギーを節約できません。マシンラーニング(機械学習)を使えば、快適さはそのままで電気代を抑えられます」とマツオカ氏。

創業から約7年。サーモスタットを皮切りに防犯カメラやドアロック、煙感知器など12の家庭向けIoT製品を発表している。

目指すのは、これらのデバイスが互いに連携し、各種センサーを通じて家の中の状態や住人の活動状況をより正確に把握できるようになることだ。

「それがまさにIoTの醍醐味です」

人間はAIによって管理されるようになる



「ダイバーシティの乏しさが日本企業の国際競争力を削いでいる」という認識でもパネリストたちの意見は一致した。北野氏は「R&D部門に限っていえば、公平な基準で採用したら少なくとも半分くらいは外国人になるはずだ」と語った。

のか。マツオカ氏はこんな信念を口にした。

「人とロボットやAIは切り離して考えることはできません。人には誰でも短所や弱みがある。そんな人間をなりたい自分に近づけてくれるのがロボットやAIです」

日本は欧米や中国に追いつけない？

続く第2部のパネルディスカッションでは、マツオカ氏に負けるとも劣らないパワフルな2名の科学者、金出武雄氏と北野宏明氏が加わり、議論は冒頭から白熱した。

北野氏はまず、AIを万能であるかのようにつける風潮に疑義を唱え、「ディープラーニング（深層学習）は万能ではなく、数学なので向き不向きがある。背後にある数学的原理や方程式を理解しないままデータを与えても、AIはうまく機能しない」と指摘した。

そして欧米や中国の企業がAI分野に巨額の投資をする中、「サイバー空間のデータでは日本は圧倒的に負けているが、現実世界のデータは未開拓」だとして、IoT社会の到来で日本にもチャンスが訪れると語った。

一方、金出氏は「日本のソフト産業はダメ

だとは思わない。実際、カーネギーメロン大学に来る日本人留学生は負けていない」と主張。データについても「人が生きていくかぎり蓄積されていく。日本が勝てないとは思っていない」と持論を展開した。

むしろ金出氏は、日本人の競争意識の低さや内向き姿勢などを問題とし、『『オール・ジャパン』『日本独自』という考え方は非常に残念。初めから（海外企業と）協働するつもりがない。それでは絶対に勝てない」と警鐘を鳴らした。

イノベーションを効果的に創出する方法についてもさまざまな意見が交わされた。マツオカ氏は「研究開発から商品化へと進む過程でほとんどのプロジェクトは『死の谷』に落ちる。でも技術者に両方の立場を経験させることで、そのリスクを軽減できる」と、シリコンバレー流の成功体験を紹介した。

多岐にわたる問題提起の本質を鋭く指摘したのは、北野氏の次の言葉だろうか。

「重要なのは経営者がテクノロジーを理解すること。これからの時代、トップが判断を誤ると取り返しのつかないことになります」

商品化を前にほとんどのプロジェクトは「死の谷」に落ちる

HONORED GUESTS

来賓の言葉



東京という地で、シリコンバレーと心をとともに

平野 信行氏 | Nobuyuki Hirano

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
代表執行役社長 グループ CEO

リンクトインの共同創業者、リード・ホフマンは "Silicon Valley is a mindset, not a location." と言ったそうです。私はシリコンバレーのエコシステムは、まさにSVJPにあると考えております。今回の第1回 SVJP ジャパン・フォーラムには米国からヨーキーさんや金出先生、(SVJP 共同議長の) オキモト先生らがお越しになりました。これほど素晴らしいエコシステムは日本ではほかにありません。フォーラムの参加者たちは、まさに東京という地で、シリコンバレーと心をとともにしているのです。

永野 毅氏 | Tsuyoshi Nagano

東京海上ホールディングス株式会社
取締役社長 グループ CEO グループカルチャー総括

昨年9月、SVJP リトリートでシリコンバレーを訪れた際にヨーキーさんにお会いして、「こんなすごい日本人がいるのか」と衝撃を受けました。天はまれに一人に二物も三物も与えるという、その生き証人ではないかと思えます。なによりも感動したのは、彼女の「目的意識 (Sense of Purpose)」です。世の中を良くしたい、もっと豊かに、そして幸せにしたいという思いにあふれています。やはりシリコンバレーは、彼女のように強い意志をもつイノベーターたちが、変革の起点になっているのだと強く実感しました。

「もっと豊かに、幸せに」という思いが社会を変える

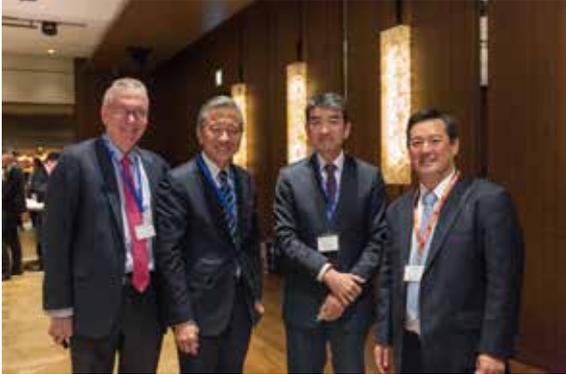


フェアな競争環境で日米が手を結ぶ契機に

長谷川 閑史氏 | Yasuchika Hasegawa

武田薬品工業株式会社 相談役

このフォーラムでは多岐にわたるテーマについて議論がなされましたが、一言でまとめるなら、シリコンバレーと日本の間にはいくつも相違点があるけれど、互いにシナジーを発揮できる要素もたくさんある、ということだと私は受け取りました。ぜひこのSVJPというプラットフォームを契機にして、日本とシリコンバレーのリーダーたちの絆を強め、またフェアな競争環境で深圳（中国）などの新興都市に負けないように日米で協力体制を築いていくことも、われわれの大事なミッション（使命）なのだと思います。



パネルディスカッション後のランチレセプション（交流会）は立食形式で行われ、パネリストたちも出席者に混じって歓談した。マツオカ氏（左上写真・中央）は「日本に戻ってこんな場でお話ができるなんて光栄。シリコンバレーで学んだことをできるだけ多く日本に伝えたい」と語った。この第1回SVJPジャパン・フォーラムは、SVJPの会員企業を中心に80名を超えるビジネスリーダーが参加した。

VOICES

参加者の声



国谷 裕子氏

Hiroko Kuniya

キャスター

国連食糧農業機関（FAO）親善大使
SVJP アドバイザー

「社会問題を解決する」「人々の暮らしをよくする」というところから発想し、最新テクノロジーを積極的に活用し、人々に苦勞や我慢を押し付けることなく目標を実現していく。ヨーキー・マツオカさんならではのイノベーションとビジネスモデルに勇気づけられました。さらにマツオカさんは「何にでもなれる」という女性のロールモデルで、大変刺激を受けました。パネルディスカッションも、経験豊かで個性的な登壇者たちの話を司会の方が巧みに引き出されていて、日本の強さや弱さ、何をすべきかが具体的にイメージできる素晴らしい議論でした。



田中 茂樹氏

Shigeki Tanaka

三井住友信託銀行株式会社
取締役常務執行役員

少子高齢化が進む日本において、ロボットやAIなどを活用した「デジタル・トランスフォーメーション」が社会・経済の新たな牽引役になると考えています。今回のフォーラムでは、東京にしながら最先端の分野で研究・開発している第一人者の方々から貴重なお話をうかがうことができました。シリコンバレーの空気を感じ、大いに刺激を受けるとともに、デジタル・トランスフォーメーションを推進していくためには、具体的なミッションやストーリー、チーム構成が重要であるなど、経験に裏付けされた実践的な助言をいただき、大変有意義でした。



法華津 誠氏

Makoto Hoketsu

株式会社ファーストリテイリング
グループ執行役員

「日本をどう変えていくべきか」という大きなテーマについて、これほどの熱意をもって壇上で話し合われる機会はなかなかありません。とくにヨーキーさんのようにシリコンバレーで活躍している日本人女性がいることは非常に頼もしく、また有難いと感じています。弊社はアパレル企業ですが、同じように「世の中を変えよう」と取り組む中で非常に参考になるお話ばかりでした。「実行力」や「スピード」が重要だということを再確認できただけでなく、新しいアイデアもたくさん得られましたので、またぜひ次回も参加したいと思います。